

平成 28 年度 自己評価表

郡山学院高等専修学校

1 教育目標

- (1) 社会性を養成し、職業人としての意識をもつ生徒を育成する。
- (2) 資格取得を通じて、目標に向かって努力できる生徒を育成する。
- (3) 社会のルールを守り、他者に対しておもいやりをもち、協調性のある生徒を育成する。

2 基本方針

- (1) 基本的な生活習慣を身につけさせる。
- (2) 基礎学力を身につけさせる。
- (3) 資格取得の意識を高め、職業意識を高揚し向上心をもたせる。

3 今年度の重点目標

- (1) 入学定員(50名)、および年度末の総定員(150名)の確保。
- (2) 退学者の減少。
- (3) 進路先決定率の向上。
- (4) 創立 50 周年を飾るにふさわしい実績づくりを検討し、実現に向けて努力する。

4 評価項目の達成、取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
学校の理念・育成人材像は定められているか。	4・3・2・1
学校における職業教育の特色は理解されているか。	4・3・2・1
社会経済のニーズを踏まえた将来構想を抱いているか。	4・3・2・1

(評価 4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切)

ア 課題

社会性を養成する指導をしているが、中学校時に不登校だった生徒で本校入学後も欠席が多い生徒がいる。

イ 改善方策

職員全員がカウンセリングマインドをもち、生徒との信頼関係をつくり、根気よく指導する。

(2) 学校運営

評価項目	評価
運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4・3・2・1
運営組織や意思決定機関は、規則等で明確化されているか。	4・3・2・1
人事・給与に関する規定等は整備されているか。	4・3・2・1
地域社会や企業との信頼関係が醸成されているか。	4・3・2・1
情報システム化等業務の効率化が図られているか。	4・3・2・1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4・3・2・1

ア 課題

地域社会や関係する企業、中学校との信頼関係は構築されてきているが、いまだ本校の認知度が低い。

イ 改善方策

中学校への広報活動、近隣のボランティアとともに、ひきつづき卒業後に仕事を通じて社会に貢献でき、前向きに自己実現ができる生徒を輩出していく。

(3) 教育活動

評価項目	評価
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4・3・2・1
育成人材像を踏まえた修業年限に対応した時間は確保されているか。	4・3・2・1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4・3・2・1
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの体系的な位置づけは明確か。	4・3・2・1
人材育成目標の達成に向けた授業を行う教員は確保されているか。	4・3・2・1
教職員の能力開発のための研修が行われているか。	4・3・2・1

ア 課題

教員間の指導力に格差がある。

イ 改善方策

上司との面談、研修および目的意識を再確認させ意識を高揚させる。

(4) 学習成果

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか。	4・3・2・1
資格取得率の向上が図られているか。	4・3・2・1
退学率の低減が図られているか。	4・3・2・1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4・3・2・1

ア 課題

特定の教科での検定試験合格率が低下している。

イ 改善方策

担当教員に合格率低下の原因と改善策を文書化させアドバイスする。

(5) 生徒支援

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4・3・2・1
生徒相談に関する体制は整備されているか。	4・3・2・1
生徒に対する経済的支援体制は整備されているか。	4・3・2・1
上級学校との連携による職業教育の取り組みが行われているか。	4・3・2・1
保護者と適切に連携しているか。	4・3・2・1
卒業生への支援体制はあるか。	4・3・2・1

ア 課題

毎年三者面談を実施して保護者との連携を図っているが、クラス懇談会への保護者の参加率が低い。

イ 改善方策

クラス懇談会の内容の充実、担任と保護者との信頼関係を強くする。

(6) 教育環境

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4・3・2・1
防災に対する体制は整備されているか。	4・3・2・1

ア 課題

「保護者アンケート」には、毎年本校の施設設備が不十分であるという回答が多い。

イ 改善方策

校舎の容積には限りがあるので、できるだけ清潔で快適な学習環境の整備に努めたい。

(7) 生徒の受入れ募集

評価項目	評価
生徒募集は適切に行われているか。	4・3・2・1
生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4・3・2・1
学納金は妥当なものとなっているか。	4・3・2・1

ア 課題

本校の認知度が低く、サポート校と混同している方も多い。

イ 改善方策

中学校への広報活動、近隣のボランティアとともに、ひきつづき卒業後に仕事を通じて社会に貢献できて、前向きに自己実現ができる生徒を輩出していく。

(8) 財務状況

評価項目	評価
中長期的に学校の財務状況は安定しているか。	4・3・2・1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4・3・2・1
財務について会計監査が適切に行われているか。	4・3・2・1
財務情報公開の体制整備はできているか。	4・3・2・1

ア 課題

財務については適正に行われている。

イ 改善方策

少子化のために入学者数が減少することが予想されるが、本校の有意性を高め他校との差別化を図り、堅実な学校運営のもとに生徒募集を実施する。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4・3・2・1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4・3・2・1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4・3・2・1
自己評価結果を公開しているか。	4・3・2・1

ア 課題

問題はない。

イ 改善方策

特にない。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4・3・2・1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4・3・2・1

ア 課 題

年2回の献血協力、地域の清掃ボランティア、近隣の神社の落ち葉ひろい等を実施している。献血をする生徒を増やすことが課題である。

イ 改善方策

継続して献血の必要性を指導する。

5 総合評価

入学定員は50名であるが、59名の新入生を確保することができた。進路決定では、2年連続で就職内定率100%進学決定率100%を達成することができた。大会参加では、全国電卓大会団体優勝・個人優勝、全国簿記大会個人優勝、全国高等専修学校体育大会女子卓球団体優勝、陸上部100m1位などの、創立50周年にふさわしい実績をあげることができた。

職員の指導力の格差が問題で、面談や研修等でできるだけ格差を埋めていきたい。